

真偽問題 正しいものは①を、正しくないものは②をマークしなさい。
①、②以外を塗り潰すと誤答になります。

- 問(1) 1点イ音は、ピアノの鍵盤では49Aに当たる。
- 問(2) 完全4度は、半音4個分の音程である。
- 問(3) ハ長調の属調は、ヘ長調である。
- 問(4) 「白鳥の湖」と「くるみ割り人形」は、いずれもチャイコフスキーの作曲である。
- 問(5) 音が伝わる速度は、空気中より水中の方が速い。
- 問(6) ピアノの白鍵上面材として、セルロイドが使用されていたことがある。
- 問(7) 錆やカビは、乾燥した冬季には発生しない。
- 問(8) ピアノに使用されるミュージックワイヤーの素材は、炭素鋼である。
- 問(9) ピン板には、カエデ材が用いられることがある。
- 問(10) 駒ピンは、駒にねじ込まれている。
- 問(11) 37A付近では、1Hzが約8セントに相当する。
- 問(12) ピタゴラスコンマは、ピタゴラス音律における異名同音の差である。
- 問(13) 音叉は、温度が上がるとピッチが低くなる。
- 問(14) 調律曲線は、フルコンサートピアノより小型のピアノの方が平らになる。
- 問(15) 長3度の音程比は、4:6である。
- 問(16) ハンマー接近（レットオフ）は、低音部から高音部まで同じ寸法にする。
- 問(17) アップライトピアノのロストモーション（から直し）は、鍵盤の高さ調整（ならし）より先に行う。
- 問(18) アップライトピアノのダンパーペダル調整では、遊びを0（ゼロ）にする。
- 問(19) アップライトピアノのダンパー総上げ調整は、スプーン掛け調整の後に実施する。
- 問(20) ハンマー接近（レットオフ）の調整は、ダンパーの掛かり（スプーン掛け）に影響しない。
- 問(21) ミュージックワイヤーNo. 19とセンターピンNo. 19は、同じ太さである。
- 問(22) ミュージックワイヤーとセンターピンのカッターは、兼用できる。
- 問(23) バットスプリングコード（バットフレンジコード）交換は、プレートからフレンジを外して行う。
- 問(24) アップライトピアノのペダル雑音の原因に、妻土台や前土台など外装の取り付け不良が考えられる。
- 問(25) 消音アップライトピアノのセンサー機能は、非接触型だけである。

多肢択一（3 択）問題

各問から、適切なものを1つ選びなさい。2つ以上選ぶと誤答になります。

問(26) フレデリック・ショパン国際コンクールに関する次の記述から、正しいものを1つ選べ。

1. 4年に1度開催される。
2. 演奏されるのは、ショパンの作品のみである。
3. 開催される場所は、ロシアのザンクトペテルブルグである。

問(27) ハ短調の説明として、正しいものを1つ選べ。

1. 調号は**b**が3つである。
2. 平行調はニ長調である。
3. 属音はFである。

問(28) 純音の説明として、正しくないものを1つ選べ。

1. 正弦波（サインカーブ）で表される音である。
2. 基本周波数の整数倍の周波数成分のみを持つ音である。
3. 自然界には存在しないが、音叉の音がこれに近い。

問(29) ピアノ発達史で、エラールのレペティションアクション完成に関する年を1つ選べ。

1. 1811年
2. 1821年
3. 1831年

問(30) ピアノの使用環境について、最も適切なものを1つ選べ。

1. 床暖房が、ピアノにとっては最適な暖房である。
2. 設置に際しては、壁に密着させない。
3. 湿気が大敵であり、湿度が低いほどピアノの狂いが少ない。

問(31) ピアノの弦について、正しいものを1つ選べ。

1. ミュージックワイヤーの太さは番手に表示され、18番は1.025mmである。
2. 最高音部の有効弦長は、およそ10mmである。
3. ミュージックワイヤーと工業用のピアノ線は、同じものである。

問(32) 響板に使用される木材の条件として、正しくないものを1つ選べ。

1. 振動伝播速度が速い。
2. 節がなく、木目がまっすぐで間隔が揃っている。
3. 比重が大きくて丈夫である。

問(33) ペダルに関する記述のうち、正しくないものを1つ選べ。

1. ウナ・コルダとは「1本の弦」という意味で、現代のピアノでは用いられない。
2. 最初にペダルの特許を取ったのはブロードウッドである。
3. ソステヌートペダルを考案したのは、モンタルである。

問(34) ピアノの外装に関する次の記述の中から、正しいものを1つ選べ。

1. チッペンデールとは、美術史の時代区分の用語である。
2. 芯材には合板が用いられており、無垢材は用いられない。
3. 塗料には化学合成されたもののほか、天然素材のものもある。

問(35) セント法について正しくないものを1つ選べ。

1. オクターブは、1200セントである。
2. セント法は、メルセンヌにより考案された。
3. 純正の短3度は、316セントである。

問(36) 平均律割り振りについて、正しいものを1つ選べ。（基音は37A、音域は33F-45Fとする）

1. 37A-42Dの唸りが基準より少ない場合、42Dは高めにずれている。
2. 33F-45Fを正しく取った時、33F-38A#の唸りと38A#-45Fの唸りの速さは一致する。
3. 37A-44Eの唸りが純正の場合、44Eは低めにずれている。

問(37) 次の記述のうち、テラーの公式と内容が合致するものを1つ選べ。

1. 弦の張力を強くすると音が高くなる。
2. 弦を太くすると音が高くなる。
3. 弦を長くすると音が高くなる。

問(38) 音律に関する記述として、正しいものを1つ選べ。

1. 純正調長音階の主和音の長3度は、384セントである。
2. ミーントーンの完全5度は、純正である。
3. ピタゴラスコンマとは、純正5度を12回繰り返すことによって生じ、24セントである。

問(39) 1オクターブ長3度（10度）の正しい音程比を、次の中から選べ。

1. 2 : 5
2. 3 : 5
3. 4 : 5

問(40) タッチについて、正しいものを1つ選べ。

1. グランドピアノの同音連打性能は、アップライトピアノの約1.5倍である。
2. ダンパー止音は、鍵盤の深さを約1/3戻した位置である。
3. 鍵盤の深さ（あがき）を深くすると、ジャックの脱進量は大きくなる。

問(41) ベッディングスクリュウ（滑り金具）調整で、関連が最も深いものを1つ選べ。

1. ハンマーの戻り（ドロップ）
2. 鍵盤の深さ（あがき）
3. ハンマーならし（打弦距離）

問(42) ペダルに関する記述として、最も適切なものを選べ。

1. グランドピアノのソフトペダルは、ペダルストロークの1/3踏み込んだ位置でシフトするように調整する。
2. 打鍵した後にソステヌートペダルを踏み込むと、打鍵された音は延音される。
3. ダンパーペダルのストロークの半分踏み込んだ位置で、ダンパーが作動するように調整する。

問(43) 1回の打鍵で、ハンマーが2度打ちする場合の原因と考えられるものを1つ選べ。

1. 鍵盤スティックがある。
2. 鍵盤の深さ（あがき）が浅い。
3. ハンマーストップ（バックストップ）が狭い。

問(44) アップライトピアノのアクションの働きを大きくする方法として正しいものを1つ選べ。

1. 鍵盤の深さ（あがき）を深くする。
2. ハンマー接近（レットオフ）を狭くする。
3. ダンパー掛かり（スプーン掛け）を早くする。

問(45) 断線修理（張弦）について、正しいものを1つ選べ。

1. 弦の引き上げは、打ち下ろしの前に行う。
2. 断線対策として、太い番手の弦を用いる。
3. 弦を張った後に、チューニングピンを打ち込んではいない。

問(46) アップライトピアノの修理について、正しいものを1つ選べ。

1. バットフェルトの貼り替えは、上部1/2を接着する。
2. キャッチャースキンの貼り替えは、両端を接着する。
3. バックチェックフェルトは、全面を接着する。

問(47) アップライトピアノのハンマーシャンク交換に関する記述として、正しくないものを1つ選べ。

1. ハンマーヘッドも交換する。
2. キャッチャーの高さも揃えるようにする。
3. シャンクの木目の向きにも留意する。

問(48) 鍵盤修理について、正しいものを1つ選べ。

1. フロントブッシングクロスは、長いほど摩滅に強いので良い。
2. 白鍵上面（アクリル樹脂製）を剥がす時は、アイロンで加熱する。
3. 黒鍵交換で黒鍵を除去する場合、カッターナイフを用いて切り離す。

問(49) ペダル交換修理について、正しいものを1つ選べ。

1. 必ず全てのペダルを新しいものに交換する。
2. アップライトピアノでは、底板を外す必要がある。
3. グランドピアノでは、ペダル箱の底板を外す。

問(50) 消音ピアノと自動演奏ピアノの点検・調整の記述で、適切なものを選べ。

1. 調律時には、必ず消音状態でヘッドフォンを使用し、電子音の発音とペダルの効果を確認する。
2. 生ピアノの調整以外は、特に指摘がない場合は触らない。
3. 消音型のアップライトピアノのハンマー接近（レットオフ）は、生ピアノと同じ調整にする。